



国立のアイヌ文化博物館(仮称)基本計画の概要

「民族共生の象徴となる空間における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会(座長:佐々木利和北海道大学客員教授)」において取りまとめられた『民族共生の象徴となる空間』における博物館基本計画」報告書(平成27年3月)及び、平成26年6月に閣議決定された「アイヌ文化の復興等を促進するための「民族共生の象徴となる空間」の整備及び管理運営に関する基本方針について」を踏まえ、博物館の理念・目的、基本的な業務、各諸室の規模等について、国立のアイヌ文化博物館(仮称)基本計画として取りまとめた。

1. 博物館の理念

先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する。

2. 博物館の目的

- ◎アイヌの歴史、文化、精神世界等に関する正しい知識を提供し、理解を促進する博物館
- ◎アイヌの歴史と文化に関する十分な知識を持つ次世代の博物館専門家を育成する博物館
- ◎アイヌの歴史と文化に関する調査と研究を行う博物館
- ◎アイヌの歴史、文化等を展示する博物館等をつなぐネットワーク拠点となる博物館

3. 博物館の基本的な業務

博物館の目的を果たすため、①展示、②教育・普及、③調査・研究、④博物館人材育成、⑤収集・保存・管理の5つの基本的な業務を行う。

4. 博物館の組織・運営

- 「将来にわたり成長しつづける博物館」をめざす。
- ◆アイヌの人々が主体的・積極的に参画できる体制を構築
 - ◆国が主体的な役割を担うとともに、地方公共団体、民間団体等がそれぞれの役割に応じて積極的に連携・協力
 - ◆博物館の存在や使命、様々な活動を国内外に広報し、発信した情報に対する意見や反応を受け止め、博物館の活動や運営に反映
 - ◆象徴空間内の他の機能との一体的な管理運営を検討

5. 博物館のネットワーク・広報

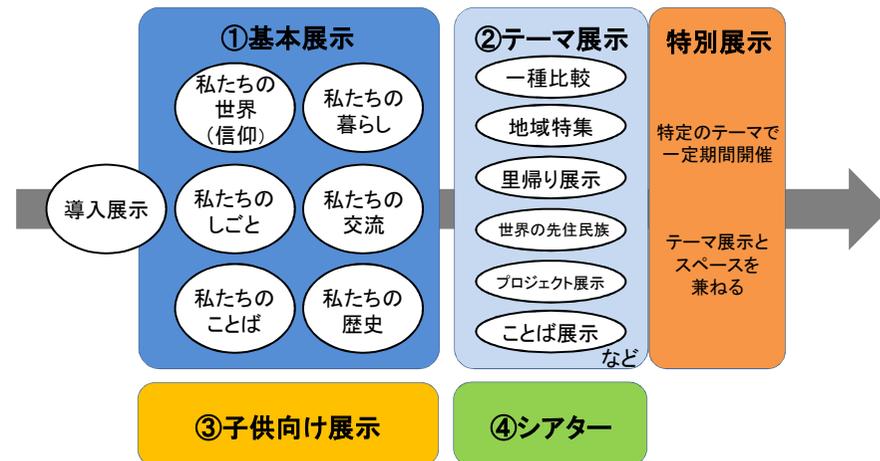
- ◆運営・活動を支える機能として、国内外の博物館・研究機関、アイヌ文化の伝承活動を行う団体等とネットワークを構築
- ◆博物館の活動やアイヌの歴史・文化等に関する情報等を発信し、受け取る人々の興味や関心を促し、理解や共感につなげる重要な活動として広報活動を持続的に展開

6. 博物館の主要な施設

施設規模: 延床面積 8,600㎡

(1) 展示室 約2,500㎡

- ◆総合展示室・・・「①基本展示室」「②テーマ展示室」「③子供向け展示室」「④シアター」から構成
- ◆特別展示室・・・各種の企画に柔軟に対応することができ、テーマ展示室と一体となった利用が可能



(2) 収蔵庫 約1,500㎡

資料の形態・性質に応じた適切かつ効率的な保管に配慮した収蔵庫のほか、特別収蔵庫、作業スペース、一時保管庫、記録撮影室、燻蒸室等から構成

(3) 調査・研究諸室 約1,000㎡

博物館の専門家(キュレーター等)とアイヌ文化の伝承者・実践者が共同研究できる研究交流室、修復・復元スペース、映像音響資料調査室等から構成

今後のスケジュール

- 平成27、28年 博物館・展示の設計
- 平成29年～平成31年 建設工事(展示工事)
- 平成32年 開館予定